

*簡易スライド投影機収蔵

アーカイブ新聞第737号(2014年6月26日)に「すばる室から古い道具など12点を収蔵」という記事を書いた。その中の一つに「簡易スライド投影機」(写真2)があった。これがなかなか優れものなので紹介したい。

名称が、PORTABLE Eigar TV TABLE VIEWER というのもすごい(写真1)。メーカーはOHTA OPTICAL CO., LTD とある。電源は100Vである。



写真1 名称の銘盤



写真2 簡易スライド投影機



写真3 使用時の姿

写真2で見ると大きめの弁当箱のようなもので、蓋を開いて斜めに止めるようになっており、蓋にすりガラスの投影板がついていて、ここにスライドを投影するようになっている(写真3)。スライドは40枚ほど装填できるようになっており、次々と新しいスライドが、投影できる構造になっている。現在でも使用可能で100Vでランプが点灯する。もっとも、これが現役に戻ることはないであろう。

箱の中の構造は開く蓋の蝶番の方に照明用ランプハウスがあり、スライドを照射し、その像を投影するレンズがあり、ランプの反対側に斜めに置かれた反射板があってスリガラ

スに投影するという至って簡単なものである（写真4）。40枚ほど装填できるスライドは、横に引き出す板でレンズ前に押し出し、次のスライドを投影するには、その板を引くと押し出される位置の次のスライドが入ってくるようにばねで押されている。撮影済みのスライドの1枚は押し出された位置に残り、次のスライドがセットされると押し出されて箱の外に出ようになっている（写真5）。

今の時代、講演では液晶プロジェクターで投影され、スライドを投影することはなくなってしまったが、ほんの十数年ほど前まで、筆者などが学会の発表でスライドを用いていた頃には、スライドの選択に便利な道具だったのだと思う。

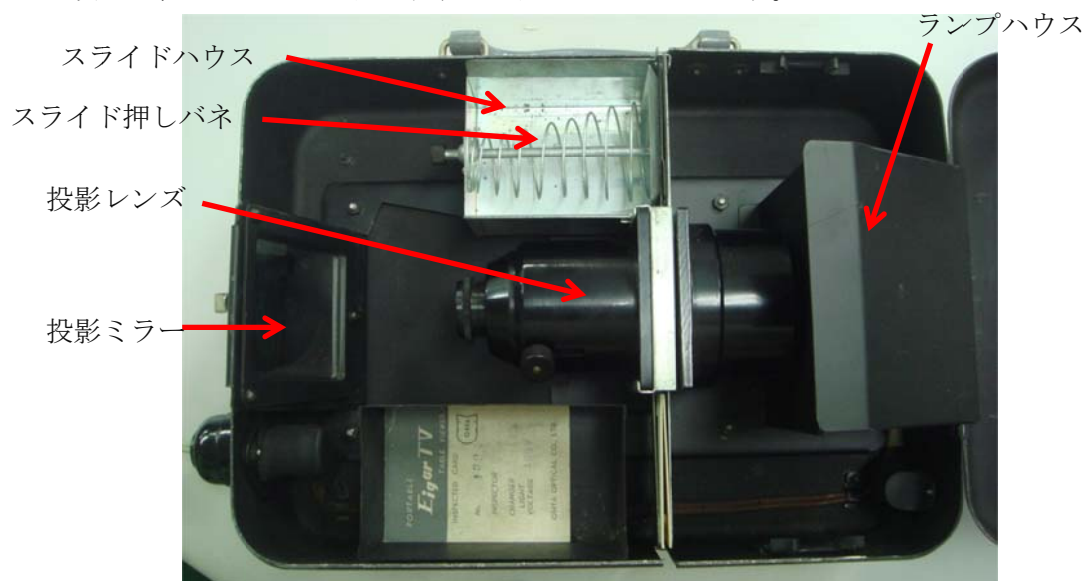


写真4



写真5 スライド交換機構

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp